



＜部内資料＞

越瓦西（こかにし）

日本共産党後援会

2023年9月2日(土)

No. 5

発行責任者：不破 千代江

台風2号による水害について <その2>

越谷市議団、三郷排水機場の故障や中川の堤防未改修など国・県の実態を指摘

今年の梅雨前線による局地的大雨は、地球温暖化により頻繁に起こるようになりました。特に越谷市の地形は、元荒川・古利根川が合流している場所で、関東平野の川の水が集まりやすい地形の場所に位置しています。

今年の浸水被害は、河川の決壊ではなく内水がポンプで排水できず浸水被害をもたらした内水氾濫です。



今回中川の水を江戸川に排水する三郷排水機場のポンプ（左図参照）が5台中3台が稼働せず、200トン排水能力中80トンしか稼働できず、中川の水位が上昇した可能性があります。これからの治水対策は、流域全体で水を少しでも貯留し、下流部への負担を減少する努力を全国で行う必要があります。

共産党市議団は内水被害の責任を指摘し安定的な運用を求め、今後の内水対策として「溜める」対策が必要だとして、国・県・市に対して「調整池」の新設を要望しています。

＜工藤市議、現場を視察＞

大相模地区は湖となってしまいました。避難者も50人弱いらっしゃいました。水害対策は課題が山積みです。ある自治会では、ホンプの設置依頼から、ホンプの稼働まで約3時間、その間自治会で持っているホンプを2個動かすなどの努力の甲斐も虚しく、床下浸水と床上浸水の危機。明るくなってきても雨は止んでくれません。大変な1日になってしまいました。

＜地域住民の声＞

- ・夜中に、どんどん浸水が進んで胸まで水が来てしまった
- ・防災無線などは雨音で全く聞こえなかった
- ・新築で引っ越してきたばかり、自動車も沈んでしまった



【9月越谷市議会・議会傍聴ツアー】

＜集合日時＞ 9月12日(火) 12:40 （連絡先：斉藤令子 090-1997-2132）

＜集合場所＞ 越谷市役所・正面受付 （正面玄関前で「ふじの木」ニュース持って案内します）

- ・工藤議員の一般質問は9月12日(火) 13:10 からの予定です
- ・山田議員は9月8日(金) 13:10 から、大和田議員は9月11日(月) 11:10 からの予定です
- ・一人の質問時間は60分ですが、時間を使い切る人も余らす人もいますので前後する事があります
- ・9月26日(火)討論・採決日 <集合日時> 9月26日(火) 9:30

※受付で待ち合わせして、一緒に行きましょう。（連絡先：斉藤令子 090-1997-2132）

＜越谷市議団：市民生活相談＞ お困りの事があれば、お気軽にご相談ください

＜相談日＞ 毎週水曜日 10:00～15:00

＜場所＞ 市役所内共産党越谷市議団控室
直通電話：048-963-9267

埼玉県知事選・柴岡ゆうま候補 健闘

<みなさんのご支援に感謝します>

8月6日投開票の埼玉県知事選で、日本共産党の柴岡ゆうま候補は健闘しましたが及びませんでした。みなさんのご支援・ご協力に感謝申し上げます。

告示前日の表明となりましたが、「自民・公明相乗りの冷たい県政から、県民の願いに心寄せた県政へ転換を」「生きることを励ます政治を」と訴えました。

柴岡ゆうまの得票数は183,692票でした。

短期間ではありましたが、越谷市では前回市議選の得票数を上回りました。

有難うございました。

<工藤議員9月議会にむけての抱負>

コロナ過を経て、エッセンシャルワーカーの働き方が改めて注目をあび、処遇改善が求められています。保健所、病院、保育士、学童保育室、介護、障がい、学校などで働く人の処遇改善について、市長の認識をただしていきたいと思えます。

<市民の声を行政に届け改善されました> 横断歩道白線・キレイになりました

「瓦曽根稻荷神社の歩道に雨が降ると水がたまって歩けない。車が通ると水が跳ねる。改善してほしい」との市民要望を受け現地を調査し、担当課に改善を要望しました。

ブロックを切って水の流れをつくり、近くの取水マスまで排水用の溝で水の流れを作る改善（写真右）がされました。

また、「栃木銀行越谷支店前の交差点の白線が消えている」「市全体の白線も消えていてこういうところからしっかりやってほしい」との市民要望が寄せられ、行政に伝えて改善（写真左）しました。土木インフラに限らず、様々な生活相談をおこなっています。

お気軽にご連絡ください。

<住民の声>

- ・横断歩道白線が消え車の往来が激しいので危険でした。新しく書き変えられ白線が太くはっきりみえます。歩道脇に立っていたら車がすぐ止まってくれました。
- ・大雨の日、車が通る度にびしょ濡れならず安心して歩いています。
- ・工藤市議さんありがとう御座いました。



「マイナは財界発」ズバリ

現在の保険証を来年秋にも廃止し、マイナンバーカードに一本化することを押し付ける政府の方針には、国民から強い批判が巻き起こっています。

それなのになぜ、岸田政権は、マイナンバーカードの押し付けをやめようとならないのか。一般紙が明らかにできない謎に「赤旗」が切り込んでいます。

「赤旗」は「マイナンバー 受注4社が自民党に献金5.8億」と、事業を受注してきた富士通、日立製作所、NEC、NTTデータの4社が2021年までの8年間で、自民党の政治資金団体に計5億8000万円もの献金をしていたことを告発。

献金した企業には、中央府省の幹部が多数天下りしていることも指摘しながら、政官財癒着の構図を問いただしました。

SNSでも「やっぱりな」「赤旗ならではの記事」と評判です。